

校長室だより No.6 6月20日(木)

「悲しみ」や「怒り」を乗り越えて(命の大切さを学ぶ教室)

19日に「命の大切さを学ぶ教室」として広島から三浦由美子さんにご来校いただき、「大切なもの～伊織の死を通じて～」と題して講演をしていただきました。

三浦さんは平成23年に当時16歳だった長男の伊織さんを飲酒運転による交通事故で亡くされています。息子さんを失われた「悲しみ」、そして飲酒運転をした運転手への「怒り」。その計り知れない苦しみの生活を抜け出させてくれたのは、同じ境遇にある人々の存在や出会いであったそうです。そこから一歩踏み出し、誰一人同じような思いをさせたくないという思いでご自身の体験を語る活動を続けておられるということでした。三浦さんやご家族が巻き込まれた壮絶な体験のお話から「命の大切さ」を痛切に感じるとともに、私は次のようなことについても考えさせられました。

三浦さんのような深刻な状況とは比較にもなりません、深い「悲しみ」や「怒り」、「後悔」などの感情にとらわれてしまい泥沼のような状況に陥ってしまうことは、私たちにもあることだと思います。そんな時に「なんで自分だけがこんなに悲しまなければいけないのか」と考えたり、人のせいにして相手に感情をぶついたりするだけではそこから抜け出すことはできない。自分の中で抱え込んでいる感情をまずは言葉にして外に出すこと。整理すること。そして同じ思いを人にさせないよう人のために行動すること。結果的にはそれが自らの心を癒やしてくれること。そして何よりも、その思いに寄り添ってくれる存在が必要なこと。

マイナスに振り切ってしまった感情を一気に消し去る特効薬はなく、少しずつプラスの方向へと自ら歩みを進めていくしかありません。亡くなられた息子さんと同世代の生徒たちに語る機会を与えられたことに感謝し、「ありがとうございました」と生徒に語りかけておられる三浦さんの姿から多くのことを学ばせていただきました。

生徒の皆さんには「今をしっかりと生き、生ききって欲しい」という三浦さんのメッセージをしっかりと受け止めるとともに、悲しみを抱えた人をどう支えていったらいいのかを真剣に考え、寄り添い、行動できる人になって欲しいと切に願います。

命の大切さを学ぶ教室(命の授業)とは

島根県警察本部が島根被害者サポートセンターに委託し、将来を担う中学生・高校生に対して実施している事業。県内外の犯罪被害者遺族の方に、ご家族を亡くされた体験等を約1時間程度話していただいている。